

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

松山市立久枝小学校 教諭 三浦 智子

1. 単元名 「未来のためにできること～久枝キッズのSDGs～」

2. 単元の目標

- ・ 自分達が暮らす町に流れる川などの環境について、どのような課題があるのかを知り、地域の一員として持続可能な解決方法を考えることができる。(知識・技能)
- ・ 課題を解決しようとする中で、様々な立場の人の立場に立って物事を関連付けたり、見通しを立てて広げたりしながら、情報を整理・分析したことを伝え合っている。(思考・判断・表現)
- ・ 自分達が暮らす地域について、自ら関わり参画しようとする意志をもち、主体的・協働的に問題を解決していこうとする。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本校は、周辺地域の協力のもと、学校において行事を長年続けている。2年生では稲の畑の五穀豊穡や無病息災を祝う「どんど焼き」。公民館の協力で、竹や稲で櫓を組み、燃やし、その火の周りを歩く。家庭から、使用済みの正月飾りを集め、一緒に燃やすことでみんなの願いを天に届ける、という地域伝統の行事である。3年生では、社会科の「町たんけん」や、地域の人材を活用した「名人さんを探そう」の活動を行うことで、地域にある施設やそこで働く人々を知り、自分達を支えてくれている存在に気付いている。4年生では、「川狩り」。地域伝統の行事を模倣して子ども達が行う。神輿を手作りし、川に沿って作られた会場まで運び、川の水をかけながら歌を歌う。この「川狩り」は、数年前まで、川の水の汚染が問題視され、実施できていない期間があった。それを残念に思った地域住民らが川の水質向上のために働いたり、子ども達が川に入らなくても行事ができるよう会場設営を市に懇願したりという苦勞の末、やっと実現できたという歴史がある。児童が、行事に参加する一員として、自分たちが住む地域に流れる川について多面的に調べることで、川からの多くの恵みが地域を豊かにしていることに気付き、主体的に学ぶことができるのではないかと考え、この題材を取り上げた。

SDGs 11 「住み続けられる町づくり」

(2) 児童観

4年生の時に「川狩り」を行った児童は、自分たちの地域の伝統行事を継続させていくことの大切さと困難さについて、考えを深めている。また、登下校中など、身近な自然として、川の環境も目にしている。6年生の児童に地域の環境についてアンケートを実施(令和4年7月)したところ、「地域の中で、良くなってほしいと思っていることはないか。」との問いに、多くの児童が「ごみが多い。」と答えた。「どこにごみが落ちていることをよく見るか」尋ねると、「通学路」の他に「川」と答えた児童が多くいた。川の環境は、児童にとって関心が高い。校区にある地域は、自治活動が盛んな歴史ある地域で、地区清掃なども頻繁に行っており、参加経験がある児童も多い。

さらに、校区内にある中学校と隣接する小学校とは、数年前から「3校子ども会議」を開き、継続して交流している。その会議でも議題に上がったのが、「校区内にごみが多い」という意見である。このことから、令和2年度から各校でクリーン活動を実施し、まずは自分たちの学校・校区からきれいにしていこうという取組を行っている。環境面のみならず、それぞれの学校行事を紹介し合ったり、挨拶運動を広げたりして、一緒に地域をよりよくしていこうとする取組を持続的に行っている。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず、4年生の時に参加した「川狩り」について想起させる。準備の段階に遡り、毎年勉強会を開いてくださるゲストティーチャーの話を取り返すことで、地域の人々の尽力のおかげで行事が続けられていることに気付かせる。それを基に、自分達の地域の良さや課題について具体的に話し合わせる。

次に、自分たちの町にどんな自然環境があり、それがどういう状態なのかを調べる。まず、学校の横を流れる久万川に目を向けさせ、川は田や海、山と繋がっていることに気付かせる。川にやってくる生き物を調査したり、田の水路を調査したりして、新たな課題発見に繋がりたい。また、防災やUDの面についても着目させ、「住み続けられる町」という視点での地域の実態をつかませる。町のために、地域の人々がどのような取組をしているかを知ることを通して、自分たちにできることについても考え、実践に繋げていく。

さらに、連携している小・中学校との交流を通して、自分たちの取組を広げていくことの手応えを感じさせたい。地区の行事をオンラインで紹介したり、他の学校の取組や工夫について知ったりすることで、次の活動へと繋がりたい。

これらの活動を通して、地域づくりに貢献できたということを取り返らせ、達成感をもたせたい。さらに、今後自分たちはどのように行動していけばよいのだろうということを考えることを通して、地域の一員としての自覚と意欲をもたせたい。

(4) ESDとの関連

○ 本学習で働かせるESDの視点

(ア) 相互性・・・人・もの・環境が全て繋がっているということ。川からさまざまな恵みを受けて地域が豊かになっているということ。

(イ) 責任性・・・自分の生活と自然とは密接な関わりがあり、環境を汚しているのが人間が出した排水やごみであるという意識をもつこと。

・ 本学習で育てたいESDの資質・能力

- 未来像を予測して計画を立てる力
- 他者と協力する態度
- つながりを尊重する態度
- 進んで参加する態度

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正 大人も子どもも地域のためにみんなで何かをやってみようとする。
 幸福感を重視する 自分の町をよりよくすることへの達成感

・達成が期待されるSDGs 11 住み続けられるまちづくり

4. 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
① 地域に流れる川などの環境と自分たちのくらしとの関わりや課題について理解している。 ② 学んだり、調べたりしたことを、言葉や図、絵、ICT機器などを用いてまとめる力を身に付けている。	① 課題を解決しようとする中で、様々な立場の人の立場に立って物事を関連付けたり、見通しを立てて広げたりしながら考えることができる。 ② 情報を整理・分析したことを伝え合っている。	① 自分達が暮らす地域について、自ら関わり参画しようとする意志を持ち、主体的・協働的に問題を解決していこうとする。 ② 川狩りやどんど焼きなどの伝統行事を通して、地域に暮らす人々の実態を捉え、自分にできることを実践しようとする。 ③ 住み続けられるまちづくりのために学んだり考えたりしたことを、地域で共有できるようにしようと発信している。

5. 単元の指導計画（全28時間）

学習活動	○学習への支援	○評価
1 川狩りの歴史から、久枝の町の課題と今後の活動の見通しをつかむ。 ・川にごみが多いと、川狩りがまたできなくなるよ。ごみがなくなってほしい。 ・道路や畑にもごみが落ちていることがあるよ。見付けても、自分では拾いにくい。でも、自分たちの力でもできそうだ。 ・地域の人みんなの協力が必要だ。	○ 4年生の時に体験した川狩りを振り返り、地域の人々の働きに着目させる。 ○ 実感として、自分たちの地域にどんな課題があるのか考えさせる。 ○ この単元の最後には、どんなゴールを目指したいのか考え、自分たちで理想のゴール図を思い描くことで、活動に一貫性をもたせる。	ア① ウ③ ウ③
2 行事や地域の環境、施設などについて、地域の人による取組を調べる。	○ 公民館や支所に協力してもらい、地域の行事の意義や実態をつ	ア①

<ul style="list-style-type: none"> ・久万川はどこから流れてきて、どこへつながっていくのだろう。 ・田んぼや水路は、誰が管理しているのだろう。 ・地域には、私たち以外にどんな生き物が住んでいるのだろう。 ・伝統行事を受け継いでいくには、どうしたらよいのだろう。 	<p>かませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ インターネットやフィールドワークなどを通して、水脈について調べる。 ○ 関係機関と連携し、調査を体験したり、生き物調査を手伝ったりして、課題解決に繋がる観点や方法に気付かせる。 	<p>イ①②</p> <p>ウ②</p>
<p>3 自分たちの校区をより良くするためにできることを考え、隣の小学校や校区の中学生との交流を通して広めたり、見直したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久枝地区の行事を見に来てもらったり、紹介したりして、知ってもらおう。 ・他の学校の地域は、どのような取組や工夫をして、地域の人と繋がっているのだろう。 ・どうすれば、久枝の町が住み続けられる町になるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ中学校区の小学生に自分たちの取組を知らせることで、同じ校区をよりよくしようという思いを広げる。 ○ 同じ行事を体験したことのある中学生に報告することで、今後の活動へのヒントを得たり、一緒に活動する仲間を増やそうと働き掛けたりすることを体験させる。 	<p>ア②</p> <p>イ①②</p>
<p>4 活動を振り返り、今後どのように行動していけばよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人と一緒に、こんなことができたよ。4年生や、他の学年のみんなに伝えたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の初めに見据えたゴールの姿と比較し、自分たちが取り組んできたことへの達成感と、次の活動への意欲をもたせる。 	